

県内初のシャモンダウイルスの関与を疑う異常産症例

北部家畜保健衛生所

○伊藤優太・大島 毅

中部家畜保健衛生所

福岡 恒・鹿島貴朗

シャモンダウイルス (SHAV) は、オルソブニヤウイルス属のアルボウイルスであり、妊娠牛への感染により異常産を引き起こす。国内では、2002 年に九州地域で初めて確認され、その後、同地域での散発的な発生が確認されている。

2025 年 2 月、本県で初めて SHAV の関与を疑う異常産が発生したため、概要を報告する。

1 発生状況

2025 年 2 月、管内 2 農場において体形異常（脊柱の S 字状彎曲、後肢関節の拘縮及び屈曲）を呈する子牛が娩出されたことから、病性鑑定を行った。

2 材料および方法

母牛血液、当該産子の臓器等を採材し、病理組織学的検査、ウイルス学的検査（ウイルス分離、遺伝子検査、中和試験）及び細菌学的検査（ブルセラ症）を実施した。

併せて、同居牛の血清及び 2024 年度のアルボウイルス感染症サーベイランスの保存血清を用いて、中和試験により SHAV の農場及び県内への浸潤状況を確認した。

3 結果

1) 病理組織学的検査：骨格筋におけるびまん性の筋線維の脂肪組織への置換や胸髄における腹索髄鞘及び腹角神経細胞の著しい減少、大脳における囲管性細胞浸潤やグリア結節が認められた。

2) ウイルス学的検査：2 農場とも母牛血清及び子牛胸水等において SHAV の中和抗体が検出され、同居牛についても高い割合での感染（7/7 頭:100%、45/55 頭:81.8%）が確認された。ウイルス分離及び遺伝子検査は全て陰性であった。

3) 細菌学的検査：ブルセラ症の検査は陰性であった。

4 県内における SHAV 浸潤状況

2024 年 8 月中旬に県東部地域での陽転が確認され、9 月下旬には管内を含む県内全域での陽転が確認された（累計抗体陽性率:43.3%(26/60 頭)）。

5 考察

得られた結果から、2 症例とも SHAV の関与を疑う異常産と診断した。

県内における抗体保有状況から、SHAV の農場内への侵入時期は 2024 年 8 月中旬から 9 月下旬と推察される。今回の 2 症例及び他県の発生事例では、いずれも母牛の交配時期が 3 月から 6 月であり、この期間の交配牛において体形異常のリスクが高くなると考えられた。

6 対策

現状、SHAV に有効なワクチンはない。アルボウイルス感染症対策として、ウイルスの侵入状況の周知及び吸血昆虫対策を推進していくとともに、アルボウイルスの関与が疑われる事例については、積極的に病性鑑定を実施し、事例数を積み重ねていく必要がある。